３章　千種

３－１．千種の概要(1～4 丁目)

千種(ちぐさ)は、逆瀬川を逆瀬川駅からさかのぼった川の右岸、西山橋から南の扇状地に阪急小林駅の方面に広がっており、コミュニティ西山区域の南部にあたります。

千種は、かつては良元村小林字西山、その前は小林村であり、その当時の地名としては外畑、内畑、南畑、前原、ハゼリ、山添などがありました。

コミュニティ西山の区域の中では、最もゆるやかな丘陵地であり、逆瀬川の右岸に広がる典型的な扇状地形です。昔はこの地形をいかした「みかん園」があり、宝塚ゴルフ倶楽部の敷地内には甘香塚（かんこうづか）という塚がその名残を留めています。小林駅近くは軍事用の馬場があって、戦後(1945)当初は、競馬場の計画がありましたが、(現)日本中央競馬会の土地が占領軍から返還をうけることができなかったため、仁川にあった京阪神不動産㈱(当時)の所有する土地と交換を行ない、同社が分譲住宅地をつくったのが住宅開発のはじめです。

兵庫県地名辞典によれば、昭和 41(1966)年から現在の地名になりました(以下の世帯数、人口は地名辞典に記されたものです)。

> ちぐさ　千種（宝塚市）
>
> 〔近代〕昭和４１年～現在の宝塚市の地名。１～４丁目がある。もとは宝塚市小林の一部。昭和４８年小林の一部を編入。町名は宝塚ゴルフ場・逆瀬川に及ぶ丘陵地に早く開かれた住宅地千種丘による。吉川英治の命名という。昭和４５年の世帯数９５９・人口３,４１９。

> ちぐさ　（千種１～４丁目）〒６６５－００７２　（世帯）１,０３２（人口）２,９８３　◇市の南部。東は阪急電鉄今津線を境に小林１～２丁目、南は塔の町に接する。北西境を逆瀬川が流れ、主要県道明石神戸宝塚線が並走。２丁目に小林駅がある。小林の西背山台地に昭和１０年代から開かれ始めた千種ヶ丘住宅がある。

３－２　千種の今と昔

（１）千種ヶ丘自治会の今・昔

■千種地域の最近までの動向については、千種ヶ丘自治会長の渡辺様による記述(1998 年)がありますので、それを紹介させていただきます。(千種ヶ丘自治会会長　渡辺廣正さん　千種ヶ丘自治会だより　第 22 号 1998 年 3 月 17 日発行　所収:以上編集者注)

「千種ヶ丘」と自治会の今・昔

当自治会も新しい方が多くなられましたので今日は「千種ヶ丘」と自治会の今昔を簡単にご紹介したいと思います。

その昔、当地は武庫郡良元村の地名でした。戦時中日本競馬会(民営)は鳴尾競馬場を海軍に接収されましたので代わりの競馬場を建設する目的で昭和 19 年にこの良元村小林地区に 31.5 万坪の土地(宝塚ゴルフ場の一部を含む)を買い入れて、厩舎等を建設して競馬の出来る日を待っていたのですが、終戦直後占領軍にゴルフ場を接収されたまま返還してもらえず、当時京阪神不動産

㈱(以下 K 社と呼ぶ)が所有していた仁川の土地を借りて競馬を催していました。競馬の日には競走馬がこの地の厩舎から仁川へ徒歩通勤していた訳で途中の道が狭く事故が絶えなかったそうです。今も千種 1 丁目 7 番地には JRA の官舎が数件ありますし、小林駅から登ってきますと千種 2 丁目 5 番地の角地(石西・中村様の宅地)には「日競」の境界標識が道から眺められ、この辺りから山の方に厩舎が並んでいたのだなと 40 数年前が偲ばれます。

昭和 23 年日本競馬会は JRA(国営日本中央競馬会)に引き継がれましたが、ゴルフ場が占領軍から返還される目処がたたぬために当地に競馬場を建設することをあきらめて、K 社所有仁川の競馬場土地・設備と当地を昭和 29 年に交換しました。K 社は此の地の厩舎 33 棟その他設備を解体撤去して分譲住宅地を造成し昭和 32 年より売り出しましたが、当時競馬界と関係の深かった作家吉川英治に名付け親を頼み「千種ヶ丘」の地名で売り出した経緯があります。

千種ヶ丘分譲住宅地も当初十数年は原っぱに所々家の建つ淋しい処で、自治会が発足するまでは K 社の分譲地現地事務所が住民へのサービスとして自治会に近い世話をしていました。昭和 53 年に自治会が正式に発足しましたが、当初は会議をする場所が無く、元さくら銀行(当時は神戸銀行)の会議室や自治会員井戸様(逆瀬川 2 丁目 8-2)のお宅などを借りて会議をしていたようです。

津山初代会長は自治会館の建設用地を探しておられた処、千種 4 丁目 3 番地～8 番地に所在していた東洋紡績㈱の社宅地が再開発されることになり、その機会に開発会社より自治会館用地 40 坪の寄贈を受け、当時の自治会員および諸団体に会館建設資金の寄付を募って建設総額 1600 万円(会館用土地は宝塚市の所有とし会館建設資金 160 万円を市より助成を受ける。)で自治会館の建設に取り掛かり、昭和 61 年 3 月末、現在の会館が完成しました。

津山会長は 10 年間会長を務められた後、当時の副会長石本さんが会長を引き継がれ、石本会長は平成 9 年まで 9 年間会長を務められました。

平成 7 年 1 月の阪神・淡路大震災では、死亡者こそ出ませんでしたが住民の家屋は甚大な被害を受け、自治会員の約 1 割の住宅が全壊しました。現在では住宅の建て替えもすすみ、自治会員総数は 636 戸になっています。

近年日本は急速に社会的構造変化が進み、福祉、治安、環境等の面で問題を抱えておりますが、当自治会では安全で住み良い生活環境を実現するため、昨年より総務部、経理部、保健部、学習部、会館管理委員会、花と緑の会、子供会、同好会等の組織を編成して運営していますが、今後は組織の中身をますます充実して自治会の目的を達成していきたいと思いますので、会員の皆様方におかれましても、自治会活動に一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ筆を置きます。

自治会会長　渡辺廣正

（２）宝塚ゴルフ倶楽部

宝塚ゴルフ倶楽部は、大正 15(1926)年、宝塚倶楽部の一部門として開設された、日本で 16 番目のゴルフ場です。かつて、競馬場の敷地になりそうな時期もありましたが、紆余曲折ののち今の地に残り、周辺は住宅地となって現在に至っています。昔は周囲の網から子供たちが入り込んで遊ぶなど、のんびりした雰囲気だったそうですが、現在は周囲に住宅も増え、交通量も多いことから、高いフェンスになり、かつて南側に隣接する千種 4 丁目住宅地との間にあったミモザの木も伐採されています。今回、コミュニティの久保田、村橋で、倶楽部職員の大西正則さんにお

話をうかがいました。阪神淡路大震災の際は、お風呂を提供していただきました(延べ 1 万人利用)。地域との関係も少なからずあるようです。1997 年度にコミュニティ西山で、ふれあい西山まつりの際に、子ども達に「好きなところきらいなところ」というアンケートをした時は、きらいなところの 2 番目にゴルフ場(一番目は西山小学校)が上げられていましたが、このような地域とのすてきな関係を、もっと日常的にコミュニティとしてもアピールしなければならないと感じています。

１．宝塚ゴルフ倶楽部の概要

大正 15(1926)年 8 月 7 日、財界人が集まり、宝塚倶楽部を創設。これは宝塚ホテル(同年 5 月 14 日開設)の中にできたもの。その倶楽部の 1 部門として生まれた。日本で 16 番目のゴルフ倶楽部。住所は創設当時、兵庫県武庫郡良元村蔵人字山畑。現在は蔵人字深谷である(現在の阪急今津線は大正 10 年の開通)。当時入会金 30 円。年会費 12 円。日本プロゴルファーの開祖である福井覚治がかかわった。会員制のゴルフ場である。

昭和 5(1930)年、18 ホールが完成。本格的になった。

歴史を感じさせるものでいえば、深谷池。1972 年 4 月、治水事業をした際に地蔵(高さ 30 センチほど)が出てきた。署名から元禄時代のものとわかる。西光院の佐々木住職に来てもらい、毎年法要を実施している。かつて山を越える街道があったのだろうとのこと。

甘香塚(かんこうづか) : かつてかんきつ類を栽培していた記念碑。現在の旧コース 1 番ホールの中ほどに位置している。

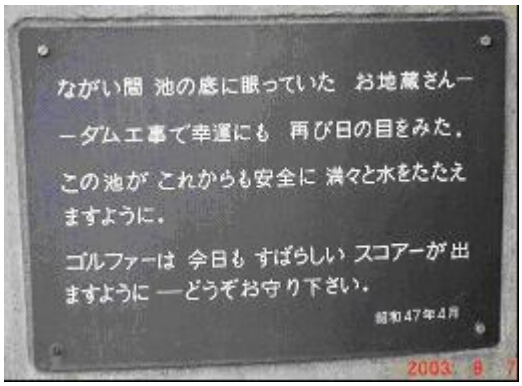
阪神競馬場との関係もある。阪神競馬場の前身は鳴尾競馬場であり、その競馬場が海軍に接収されたため、移転地としてこのゴルフ倶楽部の土地が選ばれたことがある。第 2 次世界大戦後、競馬場は現在の阪神競馬場の場所に移り、ここはゴルフ場として残ることになった。

皇族とのつながりもあり、「東久邇(ひがしくに)杯」「朝香(あさか)杯」がある。

■写真右 : 現在もコース内に残る「甘香塚（かんこうづか）」: 「明治 35 年 1 月開園」とありますから 1902 年です。みかん園の記憶です。

■写真下左 : 深谷池改修の際に出て来た地蔵さんです。毎年お祈りをしているそうです(右はお話をうかがった大西さん、左はコミュニティ西山の村橋さんです。

■写真下右 : 地蔵さんの解説です。



２．地域との関係

通常は付近住民は中に入れないので、接する機会を設けたいと考えている。

①七夕の笹を市内全小学校・幼稚園に配布している(西谷地区を除く。4 日くらいかけて笹を切り出し、配布している。)

②「ホタル鑑賞の夕べ」を 6 月に実施している(平成 15 年は 6 月 4･5 日。平成 16 年は 6 月 2･3 日予定)。約 1400 人が来場する(**5 月発行の広報たからづかをごらん下さい:編集者注**)。

③毎年 500 万円を市の教育委員会に寄付して、小学校・幼稚園の遊具購入にあててもらっている。幼稚園は終了し、現在は小学校に年 2 基を整備している。

昔はおおらかだったが、住宅ができ、客が増え、ボールがよく飛ぶようになり、大フェンスを作った(平成 2 年頃)。やむないことだろう。(住宅公団の逆瀬川団地は昭和 40 年代の開発)(コミュニティメンバーの話：昭和 30 年代は子ども達がよく入り込んでボールやティーをとって遊んでいたらしい)。

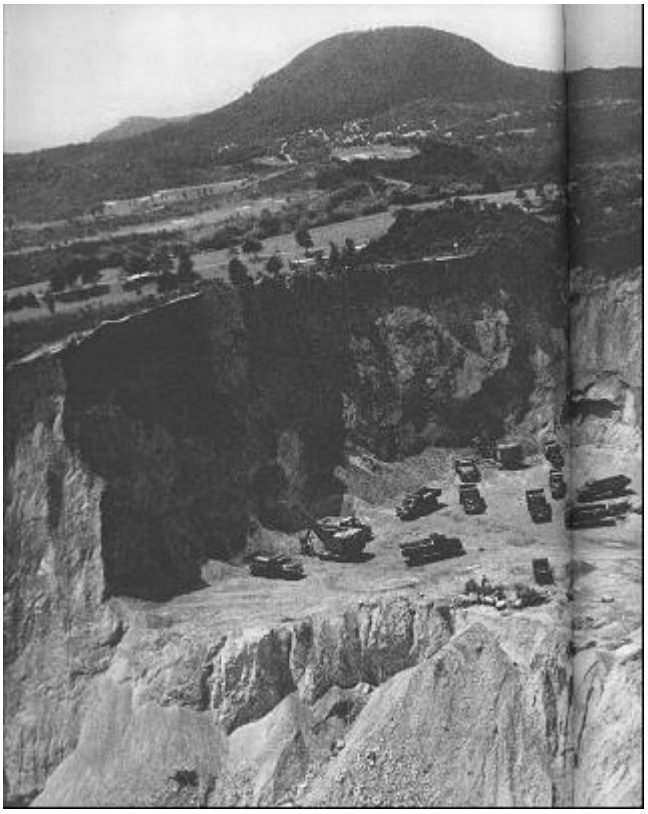
今年平成 15 年 10 月 23～26 日に日本シニアオープンがある。文部科学省と宝塚市が後援。全国規模の大会である(近隣のお住まいの方を中心に、約 150 名の方がボランティアとして協力されました)。

その他の情報：昔サンベールのあたりに塔がたっていた。教会のような建物(**編集者注:NTN 東洋ベアリングのトレーニングセンターのことです**)。

現在のガソリンスタンドはキャディの寮があったところ。わが国における女性プロゴルファーの草分けの一人である、大迫たつ子さん(昭和 42 年入社)が住んでいた。盆踊りもしていた。

現役のプロゴルファーでは島田幸作プロ、安井純子プロが知られている。

（以上は平成 15 年 8 月にお話をうかがったものです）



参考写真右:逆瀬台の開発(1970 年代)。コミュニティ西山地域の西部にあたります。かなり大掛かりな開発があったことがわかります。甲山が正面に見えています。その手前が宝塚ゴルフ倶楽部です。

■写真上：昭和 30 年代末頃の宝塚ゴルフ倶楽部周辺。宝塚高校が建設中です。住宅公団逆瀬川団地はまだありません(ゴルフ倶楽部にある写真を複写)。■写真下：平成 8 年 10 月 29 日現在の周辺。宝塚高校の北側に逆瀬台小学校ができ、白瀬川沿いにはマンション群が出来ています。わかりにくいですが、住宅公団は出来ています。また、西山小学校となりのグランドには阪神淡路大震災の仮設住宅が建てられています。

４章　社町、塔の町

４－１　社町、塔の町の概要

社町は、平林寺、宝塚神社、という寺社があることから付けられた住居表示です。一方塔の町は小林聖心女子学院の塔が、周辺のシンボル的な存在であることなどから名づけられたものです。社町、塔の町の一部がコミュニティ西山の区域にあたります。

やしろちょう　社町　〒６６５－００７１（世帯）６２（人口）１８４

◇　市の南部。東は阪急電鉄今津線を挟んで小林１丁目、南は千種１・４丁目に接する。西武台地に広がる台地。宝塚神社があり、近世初期近江坂本の日吉神社を勧請し、昭和４０年に平地の素盞嗚(すさのお)神社を合祀して宝塚神社とした。また、東寺真言宗平林寺もあり、同寺は聖徳太子の開基と伝えるが、境内の石造露盤によっても中世には存在していたことがわかる。同寺は荒木村重の乱により焼失したといわれる。

とうのちょう　塔の町　〒６６５－００７３　（世帯）１８０（人口）４１７

◇　市の南部。東は阪急電鉄今津線を境に谷口町、北は千種２～３丁目に接する。千種ヶ丘の丘陵原の南限に位置し、小林聖心女子学校（附属小学校・中学校・高校）を中心とする地域。

４－２　社町、塔の町の今と昔

（１）平林寺

【平林寺は、コミュニティ西山の地域では最も古い歴史を持つ場所であるといえます。平林寺の栞(しおり)がありますので、抜粋させていただきます。】

■平林寺の栞　　法灯千四百年の平林寺

平林寺は今を去る約千四百年前に、第三十一代用明天皇の命により、聖徳太子が創建されたお寺です。中山寺と相前後したものと寺伝は伝えています。日本歴史のあけぼの―飛鳥時代に、大和朝廷を経済的、政治的にも支えた摂津の国（現在の大阪府北半分と兵庫県南東部）の西部を流れる武庫川右岸に壮麗な大伽藍―平林寺が姿を現わした時、この地方の人々はその美しさと仏教の教えの有難さに心を奪われたことでしょう。まさに信仰の聖地だったのです。

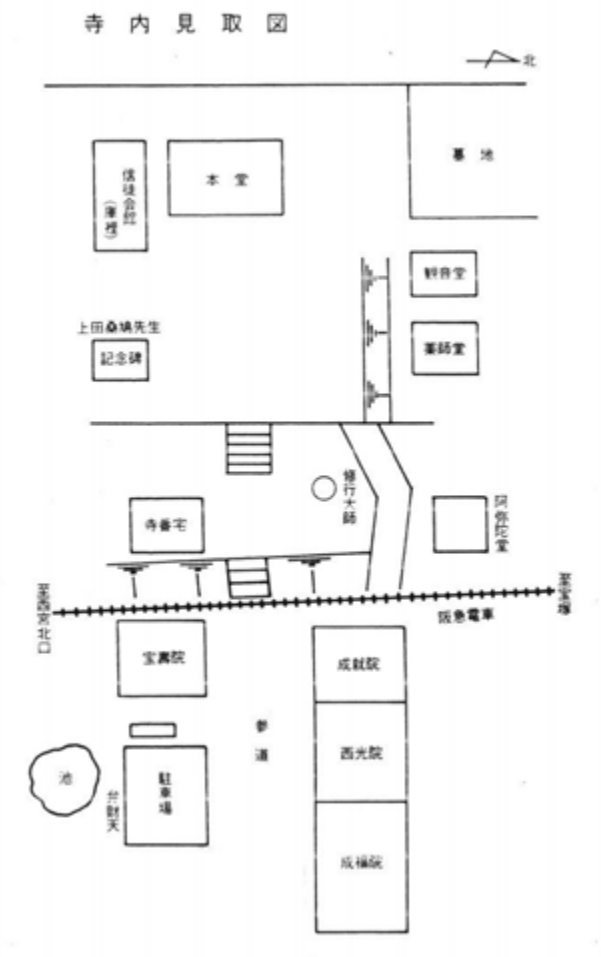
ついで、千年前には花山天皇が定められた摂津国三十三所の観音霊場の第二番札所になるなど、古代から現在まで、おびただしい人の心に安らぎを与えてきました。

しかし、たび重なる兵火と明治維新の「排仏棄釈」

の流れと第二次世界大戦後の農地解放などで、壮大を誇った大伽藍は幾度か再建され、寺域も削られて、現在の平林寺となりました。修行・布教・寺の管理に全力を傾けた歴代の山内寺院の住職と信仰心厚い檀信徒が千四百年の法灯を守りつづけました。今や社会といわず家庭までも物質至上主義の影響を大きく受けて、人のこころを荒ませ、不安と焦燥がいたるところで社会的病根となっています。これを救いうるのは正に真言密教であり、平林寺こそ「こころの道場」として、老若男女から厚い信仰と祈りを受けています。

写真前ページ右：平林寺本堂(2003 年末現在)

図右：寺内見取図(しおりから転載)。この左側(南側)に宝塚神社が隣接しています。



江戸時代の再建から現在まで

山内、元北の坊(成就院)の僧、重清などが江戸時代の慶長から寛永にかけて、再建に心血を注いだ結果、現在見られる本堂、観音堂、薬師堂及び山内寺院の一部が再建されたのです。現在の一山地の規模は境内、墓地を含めると一万五千坪に達し、中山寺、須磨寺に劣らぬものです。塔頭（たっちゅう：山内寺院）は長い間成就院、宝寿院、西光院、成福院、理性院の五ヵ寺だったが、理性院は神戸市に移転したため、現在は四ヵ寺となっています。その他、摂津名所図絵などには「江戸時代敷地内に鎮守および、経塚などあり」と記せられております。鎮守＝平林寺の護り神は弁天池の中にまつられた弁財天であり、薬師堂の上方の地に経塚があったようです。

寺内の礼拝仏と遺跡

1. **十一面観世音薩摩立像**
   木造で高さ百五十八㌢の等身大、伝鳥仏師作、藤原時代前期。摂津国観音霊場三十三ヶ所の第 2 番。
2. **薬師如来像**
   木像、伝慈覚大使作、平安初期。足腰弱い人々に、ご利益があるので信仰する人は多い。
3. **釈迦如来坐像(写真右)**
   木像、高さ七十六㌢、伝恵心僧都作、鎌倉時代前期、摂津国八十八ヶ所第七十三番霊場、宝塚市重要文化財指定。
4. **四天王像**
   木像等身大、作者など不祥。

5.

この他、木造不動明王などをまつる。

6. **露盤**

一㍍四方の石造花崗岩、鎌倉時代中期（文永年間）露盤は我が国で十七基しかなく、兵庫県ではわずか二基があるのみ。その中の一基として貴重なもので、往時は薬師堂の屋根上に使われたものらしい。宝塚市重要文化財指定。昭和四十五年宝篋印塔とともに発見。

7. **宝篋印塔**

高さ約一㍍、花崗岩造り、鎌倉時代の文安元年（1444 年）宝篋印陀羅尼経が納めてあったらしい。

8. **書聖上田桑鳩先生の記念碑**

上田先生は平林寺の檀家で、現代の前衛書道の大先達。昭和 43 年 9 月4日没したが、その時全国の弟子が集まって境内に記念碑を建立した。中国より寄贈された一畳敷の端渓に碑文を彫り、それを額とした石の記念碑。この寺を訪れる愛好家が拓本にして持ち帰ることが多い。碑文は宇野雪村先生著。

写真：平林寺にある、路盤(左側：宝塚市文化財)、宝篋印塔（右側）

写真：阪急電鉄今津線の東側にある塔頭。現在4寺院がある。雰囲気のよいまちなみとなっています。

（２）宝塚神社

■宝塚神社は平林寺と並んで、付近が小林村であったかなり以前から、周辺住民の信仰の対象であったようです。今回、小林正直宮司さんにお会いして、昭和 40 年～45 年前後の写真をもとにお話をうかがいました。小林宮司さんは昭和 38 年から現在の神社につかえておられます。

①　宝塚神社の歴史

宝塚神社ができたのは、現在隣接する平林寺と同じ時期とみられ、平安時代、承和（じょうわ）年間（834 年～。皇紀 1494 年～）と言われています（平林寺はこれに先立つ淳和（じゅんな）年間（824 年～）という記述が平林寺のしおりにあります）。

氏子（うじこ）の区域は、千種、野上、宝梅、宝生苑、ゆずりは、など、昔の小林村の一帯にわたっています。

以前は日吉（ひよし）神社という「村社」でしたが、昭和 40（1975）年、小林村の素盞嗚（すさのお）神社（同じく村社）と合併し宝塚神社となりました。このあたりは農村地帯で、岩倉山から水をもらうところ。素盞嗚神社は農耕の神様、日吉神社は山の神様であることから、岩倉山を信仰対象とした山岳信仰のなごりであったのではないかと考えています。現在大山祇（おおやまづみ）の神さまと素盞嗚の神さまを祀（まつ）っているとのことです。

本殿の両脇にある「こまいぬ」は天保 11（1840）年という記述があることから、江戸時代には地域の中心だったと思われ、また、北側入り口付近鳥居のそばにある石灯篭は、下の基盤に数個所丸いへこみがあります。このへこみは、江戸時代、天明（てんめい）の飢饉（天明 2 年から 7 年：1782～1787 年）の際に、人々がお祈りをする時に石をこすり合わせた記録とのことです。飢饉で苦しむ住民が一生懸命祈った名残です。

かつては石段がまっすぐ続いていましたが、阪急電鉄今津線を迂回して道路をつくるために変更して、今はありません。下の鳥居も大木の南側に移しましたが、大木は今も健在です。

両側の玉垣石は松田ポンプの先先代の社長などが寄進。昭和 45 年代のはずです。万博記念の石碑もあります。

小林一三は沿線を開発する時に、寺社を巡る構想があったようで、寺社を中心に駅を考えており、中山寺や清荒神などは駅が近くにつくられました。しかし宝塚神社のすぐ前に駅をつくろうとした際、そこは村の中心でもありましたが、小林村は若い人がとられるとのことで反対しました。それで、阪急の逆瀬川駅も、小林駅も、村のはずれに立地しました。かつて逆瀬川駅のすぐそばにあった火葬場も、実は小林村のはずれにあったのです（現在はコープ神戸の駐車場になっています）。

なお、現在の阪急今津線も当初の計画は広田神社から西宮えびす神社へいく計画でしたが、大社村（現在の西宮市大社町、広田町付近）が反対して、今津までになった。という経緯があります。

■その他のお話

旧小林村の土地や共有林、建物は、小林土地㈱が管理しています。大正 14（1925）年、平塚かえもんさんが設立した会社です。現在の千種の一帯は、小林村のみかん園でしたが、強制疎開され

て競馬場の土地となり、厩舎などが上にありました。

住宅公団の逆瀬川団地は昭和 38 年からの開発だったと思います。現在の野上のあたりは、1～3期にわかれて阪急が開発し、出口組が工事を請け負っていました。公団はその一部を買いうけて開発したはずです。

聖心女子学院の立地している地名の「ハゼリ」とは、端(はし)が競(せ)っている。つまり、土地のはずれにあって、崖地で飛びだしたようなところを言います。村のはずれだったということです。

中ヶ谷(なかがたに)は、支多々川沿いの南側の一帯ですが、昭和 30 年代は桃がつくられており、春は花が美しかったです。今はありません。宝梅園は昭和 30(1955)年代前半には閉園したはずです。

地域の有力者は、木本、田中、友金、平塚です。これが四姓(しせい)と呼ばれていました。続いて松本、阪本となります。

「社町」という住居表示は、当時の自治会で決めたものです。寺もあるので「社寺町」という考え方もありそうですが、そうならなかったようです(寺としては残念だったのかもしれません:編集者注)

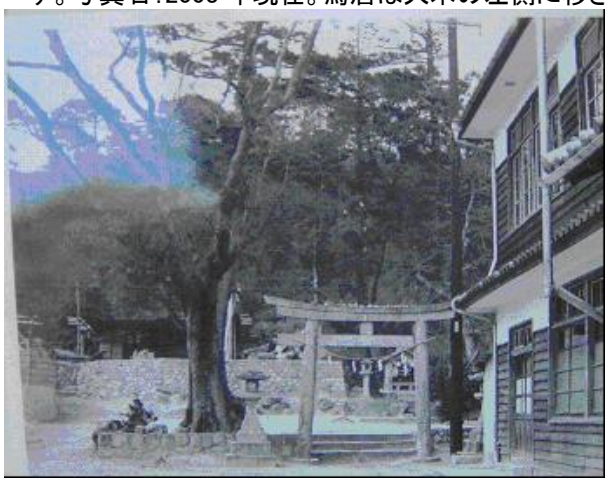
写真右:古地図(一部)「新改正攝津国名所旧跡細見大絵図」とあります。復刻版で最初の版は天保7(1836)年とのことでした。小林、小林神社(2003 年現在の宝塚神社)、平林寺などの地名が見えます。志豆神社(2003 年現在の伊和志津神社)や栫李葉岳(ユヅリハダケ:現在の岩倉山か行者山と思われます)といった地名も見えます。

写真左下:天明の飢饉の際に人々が祈ったとされる石のへこみ。石をこすり合わせて祈ったので、丸いへこみになっています。数箇所あります。

写真右下:阪神淡路大震災の碑と、小林宮司さんです。記念碑は倒れた鳥居などを利用してつくられています。

【逆瀬川周辺の商店街の方々が昭和 55(1980)年、「逆瀬川商和会30周年記念誌」という記念誌を出されておられます。その写真などを集めておられ、現在との比較をしてみました。必ずしも場所がはっきりしないところもありますが、ご覧ください。】

■宝塚神社参道　写真左:1975 年頃。東寺派ここからまっすぐに石段が続いていました。右は小林公会堂です。写真右:2003 年現在。鳥居は大木の左側に移されています。右は小林会館です。



■宝塚神社境内　写真左:1975 年頃。市街地はまだ少なく、農地が広がっています。境内の木は松です。遠方には武庫川の松林が続いていたそうです。写真右:2003 年。向こうに見えるものは市街地です。境内の木はサクラに代わっています。

■宝塚神社から東を見る。写真左:1975 年頃。手前の阪急電車の周りにはサクラが見えています。写真右:2003 年。手前に木々が茂ってきています。

（３）大和銀行宝塚運動場

■今回、大和銀行宝塚運動場(通称大和銀行グラウンド)については、宝塚市ゆずりは台の池内様から、大和銀行(合併して 2003 年末現在は「りそな銀行」)40 年史及び 70 年史からの引用文を送付いただきました。大和銀行グラウンドはかつて国体の射撃会場になったこともあるようです。整備当時のにぎわいがしのばれる内容となっています。2003 年末現在は、住宅用地としての開発が指向されているようです。(以上編集者注)

「窓」　宝塚運動場物語　70 年史(昭和 63 年 11 月発行)より転載

現在の宝塚運動場は、昭和 25 年 12 月 9 日、当行(大和銀行：2003 年末現在はりそな銀行)の厚生施設として設置された。阪急電鉄逆瀬川駅からほど近く、六甲山麓の高台に位置しており、取得した当時の総面積は約 13,000 坪(42,900 ㎡)であった。当初は旧所有者時代の名称を踏襲して大和銀行「厚生園」と称した。これが現在の「大和銀行宝塚運動場」と改称されたのは昭和 33 年 4 月のことである。

ここはそれ以前は日産グループの運動場で、一時米軍に接収されていたこともあった。前後日産財閥が解体されたためか、この運動場は処分されることになった。分割せずに売却したいという意向であった。

この引き合いを受けた当行としては、食指は動いたものの、何分にも大きな買い物であり、当時における厚生施設としての緊急度について内部でも議論のあるところであった。結局購入は頭取(当時は社長)になって間のない寺尾威夫の英断によって決まった。

これを取得した当時は手入れも行き届かず荒れ果てていた。ただちにクラブハウスの改修や地下 60m に及ぶ井戸の掘削など諸設備の充実を行なった後、昭和 26 年 5 月 13 日、春季大運動会を初めてここで開催した。当日は初夏を思わせるような強い日射しの好天気に恵まれ、行員・家族の参加申込者は 5,300 名を超えた。

この運動場は、昭和 31 年 10 月 29 日から 3 日間、第 11 回国民体育大会秋季大会の射撃会場に選ばれ、高松宮殿下がその初日に御来場になった。スキート射撃(クレー射撃の一種)、ライフル射撃などを熱心に御覧のうえ、クラブハウス玄関前に記念の植樹をされたのである。

それから 9 年後の昭和 40 年 7 月その一隅にプールを開設した。利用者も多く、今もシーズンになると行員や家族が盛んな水しぶきをあげている。

大和銀行　40 年史(昭和 33 年前後の発行と思われます：編集者注)より転載

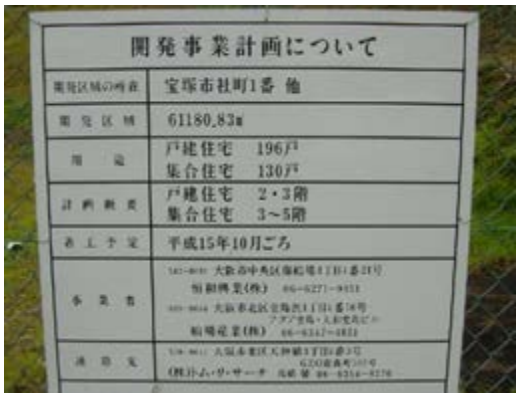
京阪神地区勤務の職員の健康増進に資する目的で、昭和 25 年 12 月 9 日、宝塚市小林外畑に大和銀行厚生園を開いた。位置は、阪急電鉄逆瀬川駅に近く、六甲山麓の高台にあって 1 万 5 千余坪の敷地面積を有する広大な総合運動場である。

園内にはクラブハウスを中心に直線 200 メートル、一周 400m のトラックと、これに接して野球場、バレーボールコートがあり、正門付近にはテニスコート四面と子供遊園地が設けられ、池畔の小運動場は練習用の球場となっている。昭和 28 年 4 月から毎年新入職員の手によって運動場の周囲に記念植樹が行われ、常緑樹のあいだに春は桜、つつじなどが乱れ咲き、秋は紅葉にいろどられた中で京阪神地区合同大運動会をもよおすほか、一年を通じて職員に活用され、また、昭和 31 年秋の国民体育大会には射撃競技場にあてられ、10 月 29 日高松宮殿下をお迎えする光栄に浴した。33 年 4 月 1 日、厚生園を大和銀行宝塚運動場と改称し、現在に至っている。

写真:大和銀行宝塚運動場跡地　ひっそりと静まり返っています。

写真:隣接するため池:2つのため池がありますが、開発予定地になっています。周辺では数少ないため池です。

写真下:開発事業計画看板。2003 年末現在は戸建て住宅になる予定です。



（４）小林聖心女子学院

小林聖心女子学院は、1926(大正 15)年 12 月、当時の武庫郡良元村小林字ハゼリの地(2003 年末現在は宝塚市塔の町)に立地しました。1923(大正 12)年 5 月に、現在の神戸市御影付近(武庫郡住吉村鴨子ヶ原)に「住吉聖心女子学院」として開校していましたが、関東大震災(1922 年)によって東京の聖心会が被害を受け、東京から生徒が疎開していました。その影響もあって、広い土地を探し、当時宝塚温泉で知られていたこの地に決めたようです。

当時からの記録は、2002 年の産経新聞に、初代学院長のヘルマナ・マイヤーさんを紹介している詳しい記述があり、これに譲りますが、キリスト教の精神にもとづく教育を実践する聖心女子学院の存在は、この地域の方々にも関係者が多く、地域の雰囲気を高めるものといえるでしょう。なお、小林にある「バラホーム保育所」は、「聖心会」創立 150 年記念事業として、「小林みこころ会」(卒業生の会です)が中心となって、1953(昭和 28)年、2 月 2 日、現在の地に立地しました(2003 年末現在の住所は小林 2 丁目 12 番 34 号)。このバラホームという名称は、聖心会の創始者である聖マグダレナ・ソフィア・バラ（１７７９－１８６５年）の名前からとったものです。同様にキリスト教の精神に基づく保育を実践されています。なお、これに先立つ 1951(昭和 26)年 5 月 9 日、良元村伊子志(いそし)公会堂、蔵人(くらんど)診療所の 2 箇所に「無料診療所」を開設しています（伊子志公会堂は利用者が少なく同年 10 月 25 日閉鎖)。

以下、ホームページからの沿革と浅田さまからお寄せいただいた原稿を紹介させていただきます(学院には 2003 年 9 月 4 日訪問し、西本教頭先生にお話をうかがいました。ありがとうございました)。

学院の沿革

聖心女子学院は、1800年にフランスで創立されたカトリック女子修道会「聖心会」を母体としています。創立者聖マグダレナ・ソフィア・バラはフランス革命の混乱期に成長する中で、女性の担う社会的責任の大きさを痛感し、女子教育を目的として聖心会を創立しました。その名称はキリストの愛の象徴である「聖心(みこころ)」に由来します。

最初の聖心女子学院は1801年にフランスのアミアンで創立されました。200年を経た現在、同じ精神を受け継いだ姉妹校は世界31カ国に広がり、その数は146校となっています。

日本では1908年に4名の聖心会修道女がオーストラリアから来日し、最初の聖心女子学院が東京に、そして1923年には神戸に住吉聖心女子学院(高等女学校、小学校)が設立されました。1926年には校舎が現在の小林へ移転され、校名が小林聖心女子学院と改称されました。現在、日本における聖心女子学院は、上記2校のほか、聖心女子大学、聖心女子専門学校、不二聖心女子学院、札幌聖心女子学院、聖心インターナショナルスクールの7校の姉妹校があります。

小林聖心女子学院は1947年に専門学校を設置しました。翌48年には学制改革に伴って、中学校と高等学校が発足し、49年には聖心女子大学小林分校が開校しました。その後66年に聖心女子大学小林分校は東京本校に併合されました。高等学校では、1985年からのフィリピン体験学習、90年からの週5日制実施、教科として体験学習科の導入など、教育内容を充実させるためのカリキュラム編成にいち早く取り組んでいます。

写真：小林聖心女子学院(ホームページより)。この塔の存在もあって、1975(昭和 40)年、学院を含む周辺の住居表示は「塔の町（とうのちょう）となりました。

写真：創立当時の小林聖心女子学院。まだ木々は茂っていませんが、本館は完成しています。

写真：2003 年現在の本館です。平成 11(1999)年 6 月に、文化庁から登録有形文化財に指定されています。

■小林聖心女子学院　昭和２０年代の思い出

浅田【旧姓進藤】和子さん

【浅田さんは太平洋戦争後(1945 年～)、小林の寄宿舎に身を寄せておられたそうです。ゴルフ場がイモ畑などにならなかったのはどうしてだろうというお話もありましたが、これは恐らく軍馬の演習場としてゴルフ場が位置づけられていたためではないでしょうか。また、神戸にお住まいだったとき、陸軍記念日(3 月 10 日)に小学校の遠足で宝梅園まで来たそうです。学院に上がる坂道は現在、地域の方も利用されていますが、この道は小林聖心女子学院の所有地です。利用させていただいている私たちも感謝です。今回、みこころ会に依頼しましたところ、一文をお寄せいただきました:以上編集者注】

昭和 20 年（1945 年）8 月に自宅が空襲によって焼滅し、同年秋から私は小林聖心学院の寄宿舎にお世話になりました。

当時、丘の上には聖心会の修道院と学校（小学校から女学校…旧制…と寄宿舎）以外の建物はなく、学院と六甲山系の間には、ゴルフ場の緑が広がっているだけでした。

三階にあった高校の教室からは、ゴルフ場が庭のように見え、目を休めるには何よりの景観でした。

のどかな、人里はなれた学び舎といえば、理想的な環境のように聞こえるでしょうけれど、物資も電力も乏しかった昭和２０年台前半には、今の若い方たちには「信じられない！」と言われそうなことが沢山ありました。

たとえば、２０年から２１年にかけては、工場など特別なところ以外は深夜の送電はストップ：それ以外の時間でも予告なしの停電が珍しいことではありませんでした。丘の上にある学院は、電気が止まると水も使えなくなります。そこで、朝、顔を洗う水を確保しておく為に、夕方、寄宿生全員がめいめいの水差しを持って、坂の下のお宅まで水を頂きに行く！ということもありました。

なんでも自由に買える時代ではなかったので、寄宿舎の生徒は、お米の配給を受ける為に、良元村に転入し、夏休みには転出証明をもって家に帰り、二学期の始まる時にはまた家から転出証明をもって学校に戻る　という面倒な手続きが必要でした。

<u>忘れられないクリスマス</u>

昭和２０年のクリスマスイヴ、真夜中のミサまでの時間、一旦ベッドに入っていた生徒たちの耳に聞きなれない物音が飛び込んで来ました。何事か？と廊下に出て窓からのぞくと、学院の玄関前に次々と車が到着し、降り立った人々が、興奮気味の声で互いに呼び交わしているのです。夜更けのことではっきりとは見えませでしたが、日本人の声でないことは分かりました。やがて時間が来て、深夜のミサのために聖堂二階の聖歌隊席にはいって、階下を見ましたら、約 200 人収容の聖堂は、通路までカーキ色の制服姿で一杯。宝塚周辺に駐留する米軍の兵士たちだったのです。

ミサが終わった後、生徒たちは（当時はめったにお目にかかれなかった）ケーキとそして、生まれて始めてのコカコーラをいただいたのですが、「これは、米軍の兵士たちからの贈り物です」とのことでした。

戦争末期には、ガソリンがない為、木炭を燃料にはしる自動車でさえその数は減る一方でしたから、校舎の周りを埋め尽くすほどの車を見たのも初めてでしたし、子供心に「アメリカって豊か

なんだな～」と思ったものですが、今考えると、あの夜、丘の上の聖堂に集まった兵士たちも、半年前までは明日をも知れぬ戦場で眠れぬ夜を過ごしたのかも知れず、戦火はおさまったとは言え、敵であった国に駐留し、日本人の復讐に会うのではないかと不安な日々を過ごしてきて、あの夜、やっと故郷の教会とおなじミサに参加出来て、ほっとするひと時だったのではないでしょうか？

平素、殆ど女子ばかりの学院の聖堂にみちあふれた、賛美歌に唱和する兵士たちの少し調子はずれの声が今も耳のどこかに残っています。その夜の祭壇は、数十本の蝋燭の炎が、十字架や金の燭台を照らし出し、夢のような光景でした。

坂道を駆け上るジープ

阪急小林駅から丘の上に続く坂道は現在、線路に近い一部分をのぞいて車輌の進入禁止となっていますが、1952 年に私が高校を卒業する頃までは、修道院と学校関係者以外はあの道を通ることもなく、時折、修道院を訪問する駐留軍の従軍司祭などがジープで勢い良く坂道を駆け上がってくるのに目を見張ったりしたものでした。

千種地区　住宅の誕生

高校卒業後、私はかなり長い期間、母校を訪問する機会に恵まれませんでした。子供たちも手を離れて同窓会などの機会に母校に足を運ぶようになって、坂道で買い物袋を持った人の姿を見かけて、ちょっとビックリ！　「へえ～この向こうに住宅が出来たんだ」と、時代の流れを感じたものでした。（あさだ　かずこ　さん）

写真：聖心女子学院本館に向かう坂道。学院の所有地ですが、千種の住民も利用させていただいています。かつてジープが通った道です。

（５）バラホーム保育所

【バラホーム保育所は、1953 年 2 月 2 日、良元村役場より三十名の児童をうけて開所したと、小林みこころ会 50 年誌にあります。これに先立ち、1951 年 5 月 9 日良元村伊子志公会堂、蔵人診療所にて無料診療所を開設しています。当時から奉仕の精神に満ちた活動が、関係者によって積み重ねられてきたことがわかります。コミュニティ西山の区域ではないのですが、聖心女子学院とのつながりも強く、紹介させていただきます。コミュニティ西山の高田英子(たかだひでこ)さんが原稿を寄せていただきました。】

■バラホーム保育所について

高田英子さん

うちの子は３人ともバラホーム保育所で育てていただきました。

来春(2004年：編集者注)3月で、とうとう最後の沙羅が卒園。私の人生の4分の１がこのバラホームとのおつきあいでしたから、その日が来ることが、なんともいえない寂しさと感謝が混じりあった感情です。モンテッソーリの教育法を取り入れ、しつけにも大変厳しいところではありますが、シスターの指導の元、保護士のみなさまもとにかく明るく、愛にあふれています。

バラホームは昨年(2002年)創立50周年を迎えました。本当にすばらしい歴史があるのです。その時には園に、診療所からスタートしたときの写真が掲示されていました。精神のロザリオ ヒルにはこどもたちはたびたびお散歩に出かけ、先日はBBQも楽しませていただいておりました。
震災で全壊してしまったときは、聖心のグラウンドをかりて運動会をしました。クリスマスには本格的なオペレッタ（聖劇）が年長さんによって演じられ、その伝統の清さ、奥ゆかしさは他にはないものです。

カトリック信者でなくとも、神様と生きているという感じがします。

バラホームでは、それぞれの家庭環境に大きなばらつきがありますし、中には保護士を困らすようなこどもたちもいるのですが、最後はどんなこどもたちも、見違えるようになって卒園していきます。保育士さんにはこのバラホームの卒園生も数名おられます。

シスターや先生方の無条件の愛というものが、最後にはこどもを変えていきます。うちの次男は、赤ちゃんの時から保護士やシスターを大いに困らせるいたずらものでしたが、最後には、りっぱな姿で卒園してくれ、今、人の痛みがわかるとても思いやりのある小学生になっています。

■写真右：2003年現在のバラホーム保育所。向こうに小林聖心女子学院の塔が見えます。

■(参考)バラホームの年表(小林聖心みこころ会50年誌：昭和48年10月10日発行：から抜粋)

昭和 25(1950)年	11･21 聖心会創立 150 年記念事業として小林聖心みこころ会が、小林に託児所、無料診療所(後のバラホーム)設立を決定した。
昭和 26(1951)年	2･18 良元村との交渉。
	3･22 兵庫県との交渉始まる。
	4･13 150,000 円の補助金、遂に本日入手した。
	5.9 良元村伊子志公会堂、蔵人診療所に各々無料診療所開設。
	9･21 公益事業の許可を得る為、役員決定 理事長 ヘルマンナ･マイヤー 理事 山邑美重子、町田登起子、望月婦志 監事 2 名 評議員 11 名

理事長を申請者として財団法人小林聖心みこころ会設立の為県知事に許可申請書を提出。
12･28　小林聖心みこころ会財団法人申請書を西宮保健所長に提出する。

昭和 27(1952)年　3･1　父兄会世話役会でバラホーム建設資金約 600 万円の捻出要請。
6･12　バラホーム建設用地 213 坪をみこころ会代表山邑美重子名義で購入手続完了。
6･15　バラホーム上棟式。
9･15　バラホーム新築なる。
9･19　母の会による募金総額 339,100 円(最終額 345,900 となる)
9･29　バラホーム新築祝福式。
10･7　バラホーム新築ご披露
11･14　高松宮妃殿下、名誉顧問就任をご承認下される。
12･11　バラホーム保育所新設置許可申請書を県児童課へ提出する。

昭和 28(1953)年　1･8　1 月 5 日付発令の小林聖心みこころ会保育所の認可書が良元村役場を経て到着した
2･2　バラホーム保育所開設
5･15　兵庫県共同募金配分を診療所に届ける。
9･30　厚生大臣より社会福祉法人小林聖心みこころ会の認可が約 1 年半ぶりに許可された。
11･18　バラホーム不動産登記完了。
12･28　良元村役場へ法人届書を提出して、県へ推進を依頼する。

昭和 29(1954)年　10･11　バラホームに電話架設される。

昭和 30(1955)年　10･25　バラホーム建築費完払となる。
10･30　社会福祉法人小林聖心みこころ会役員改選。理事長ヘルマンナ・マイヤー童貞辞任。後任理事長に伊藤マリ子童貞ご就任。
12･30　前院長ヘルマンナ・マイヤー童貞午後 3 時ご帰天遊ばされる。

昭和 31(1956)年　6･19　届出書類を神戸地方法務局伊丹出張所へ提出、登記依頼する。
6･25　同上登記受理。

昭和 33(1958)年　11･24　社会福祉法人小林聖心みこころ会役員改選とその登記。理事長以下再任される。
12･4　神戸地方法務局伊丹支局へ登記完了。

昭和　34(1959)年　11･30　社会福祉法人小林聖心みこころ会理事長更迭。理事長伊藤マリ子童貞辞任。新理事長に畑中芳枝童貞就任。

昭和　44(1969)年　1･11　愛徳童貞会管区長シスター・メリーモランが理事長となられ、正式にバラホームは聖心から独立した。同窓会では今なお毎年多額の援助をバラホームに送っている。

第５章　関連記録

（１）クイズでポン

今回、記録を作成するにあたり、子どもたちに地域の歴史を知ってもらおうと、ふれあい西山まつり（2003 年 10 月 18 日）の機会に、クイズを行ないました。以下はその記録です。

■受付は老人会の方々です

■盛況です。お父さんも参加してます。

■大人も子どもも入り混じっています。

■お母さんが助けています。

■ヨーヨー釣りは人気です。

■実行委員です。

2003 年 11 月 12 日(水) コミュニティ西山

クイズでポン

回答です。

西山小学校区（コミュニティ西山）にかんけいするクイズでした。全部で 672 名うち有効660 人の回答がありました。ありがとうございました(記入がないところもあるので質問ごとに回答数は違っています)。質問のあとの数字がみなさんの回答数です。

■ クイズ１：学校のグランドにならんで植えてある大きな木はなんでしょう

：ヒント：ゆらゆらゆれる葉っぱが目印だよ。校歌にもあるよ。

① ただの木　　２

② ぼくらの木　　１１

③ ポプラの木　６４６　これが正解です。むかしはもっと大きく、たくさんありました。ポプラの木は葉っぱがすごくよくゆれるのが特徴です。西山小学校の校歌の1番にでてきます。歌ってみましょう。

■ クイズ２：プールの南側にあるたてものの名前はなんでしょう

：ヒント：みんなが今いるところだよ

① ウエル西山　６５３　これが正解です。コミュニティのひとによびかけてつくりました。ウエルは英語で**井戸**。井戸端会議をしてほしいという意味と、ユーアー**ウエル**カムというあいさつ、そしてまちづくりの種を**植える**という意味から名づけられました。

② くえる西山　　３　なにか食べられるかもしれませんが、ちがいました。

③ ふえる西山　　５　なにか増えるかもしれませんが、ちがいました。

■ クイズ３：このたてものは自然のちからを使っているよ。それはなんでしょう

：ヒント：たてものの入り口の上に説明があるよ

① 火　　３

② 太陽　　６１９　これが正解です。屋上に太陽光発電のパネルが置いてあります。

③ 水　　３４　たてものの入り口の説明ということで、一応ちがうのです。でも雨水利用のタンクがあるので、これも正解にします。すいません。

■ クイズ４：西山小学校区にあるもののうち、いちばん古くできたものはなんでしょう

：ヒント：おぼうさんがいるよ

①宝塚ゴルフ場　２９　できたのは １９２６（大正１５）年８月７日です。正しくは「宝塚ゴルフ倶楽部」といいます。日本で 16番目にできたゴルフ場です。

②聖心女子学院　１７　できたのは１９２６（大正１５）年１２月です。正しくは小林(おばやし)聖心女子学院といいます。みなさんの知り合いにも行ってる人がいますね。

③聖天さん　６２３　できたのは１９１９(大正８)年ころです。これが正解です。正しくは七宝山了徳寺院(しっぽうざんりょうとくじいん)といいます。京都の東寺の管長だった人が開いたものです。ゼロ戦の実物大模型があります。ちなみに「聖天寺」というよび方はまちがいです。「宝塚聖天さん」というのがいつも使われている呼び名です。

■ クイズ５：つぎのうちで正しいものはなんでしょう。

：ヒント：正しいものは２つあるよ

①千種にはむかし競馬場のグランドがあった　３６９　これは正解です。むかしは軍隊に使う馬がたくさんいました。そのあとは競馬場の敷地となり、阪神競馬場ができる計画もありましたが、今はゴルフ場や住宅地になっています。

②宝梅にはむかし梅の林があった　５４１　これも正解です。むかしは宝梅園（ほうばいえん）という大きな果樹園があり、梅の林や、みかん畑などが広がっていました。現在は宝梅中学校やマンション、有料老人ホーム(建設中)、住宅などになっています。

③野上にはむかし宝の塚とよばれたお墓があった　２４６　これは「野上」ではなく、「宝梅」なのでまちがいです。この宝の塚はむかし、現在の宝梅中学校の校庭の南側あたりにありましたが、中学校ができるときに、正門の横に移されました。江戸時代に宝を埋めたという説があります。宝塚市の名前のもとになったところです。

ということです。みなさん、この西山小学校の校区のことが少しわかりましたか？知っているおばあさんやおじいさんにも昔の話を聞いてみましょう。

クイズでポン！　アンケート集計
回答者は672名うち有効660名。小学生が多いですが、5歳以下も多くなっています。30代の女性が多いのは、お母さんが多く参加していただいたことによると思います。

年齢（才）	男	女	計
1～2	12	17	29
3	13	10	23
4	16	18	34
5	23	27	50
6	46	23	69
7	30	40	70
8	45	37	82
9	34	30	64
10	20	42	62
11	27	25	52
12	10	13	23
13～19	3	13	16
20代	1	3	4
30代	5	52	57
40代	10	8	18
50代	0	3	3
60代	0	2	2
70代	1	1	2
	296	364	660